

魚沼市小出郷文化会館管理業務民間委託実施計画（素案）

市民意見交換会 議事録

開催日 平成27年3月25日（金）19:00～21:00

会 場 魚沼市地域振興センター2階コンベンションホール

参加者 18名 アドバイザー1名 事務局3名

事務局 私の方から一つだけお尋ねしたいのですけれども、ほかの会場で魚沼市小出郷文化会館という名前なのですけれども合併時にこの名称になりました。合併してから10年経つのに未だに小出郷なのかというご意見があちこちの会場で必ず出てくるものですから、そういったところどう思われるかというのをご質問やご意見の中にそれも加えてお聞かせ願えると助かると思うのでよろしくお願いいたします。

質問 民間にもっとも委託しなければいけない一番の理由は为什么呢。

回答 基本計画の現状と課題のところにも謳っていますが、魚沼市が合併して10年経ったわけです。合併当初は市の行政の一定のレベルを維持するため、国の方から旧6か町村分の交付金が出ていました。これが合併して10年が経ちましたので、今後は新しい基準で見直してこの金額を減らしていきますというような話がある中で、それに対応するために、市では行政改革を行ってきました。その中で、使っていない建物の取り壊しですとか、いわゆるスクラップアンドビルドという形で例えば守門庁舎については、守門の開発センターを取り壊して、その機能を庁舎の2階、3階に持たせるというようなことをやってきた訳です。それだけでは足りませんので、合併時の時から言われていました職員の数についても10年間で25%減らしましょうというような流れがあります。そういった流れの中から、文化会館につきましてもまず維持管理経費がここ5年間で半分位に減らされるというようなことがあります。なにより職員の数が減らされていまして、今現在正規の職員が5人。この5人の職員で会館の管理を行い、貸館を行い、なおかつ自主事業を行うというような形なのですが、これではとても手が足りないというようなことで非常勤の技術補助員を雇用しています。今現在7名おります。ただ非常勤職員につきまして、魚沼市は1年更新で2月になりますと契約を更新するかどうかと聞くわけです。身分が1年きりの不安定な形で、なおかつ賃金については、年度で更新して上がるわけではなく同じ金額になります。そういった大変身分が不安定な方の力によって支えられて、会館の運営が出来ているという状況ですので、このままもっと職員の数が減らされるということになりますと、会館においていただいた皆様方の安全確保ができない状態になります。そういった面から民間や財団法人に指定管理に出すことによって、

安定した雇用を生み出して、お客様から安心して使ってもらえるような会館にしていきたいというようなことが一番の理由になっています。

質問 今までの説明はほぼこの方向で行くという決定事項なのでしょうか。

回答 基本計画につきましては、平成 22 年度の行政改革推進委員の皆様のご提言を受けて「民間にできるものは民間に」という流れの中、平成 24 年まで、市あるいは企画運営委員の皆さんのご意見を頂戴しながら方針を出してきました。

25 年、26 年でいろいろと検討した結果、市民の皆様が中心となった財団法人に指定管理に出すのが望ましいという方針が出ておりますので、その形で進めたいと思っています。

質問 収入が 400 万円とか 450 万円しか、本当に無いのですか。

回答 会館をご利用いただいている多くの皆様から使用料を頂く訳なのですが、その中で市、学校関係、文化協会、会館のフランチャイズ団体など会館で育成してきた団体等があります。そういった方達のご利用や市の共催によって行う事業については減免という形があり、ザックリ申しあげまして年間 2,500 万円程の収入があるはずなのですが、実際の収入は 500 万円程度にしかないという状態です。それ以外に掛かっている経費は、市が持ち出している分になります。

質問 その 2,000 万円や 3,000 万円というのは、あってもいいと思ったのですよ。それで減免があるのであれば、逆に一番の目的は、市民の教養であったり娯楽であったりということを謳ってありますけれども、同じ市民の満足度であれば今度はもっと外へ対してもアピールが出来るような活動をすべきじゃなからうかと思えます。例えば有名な芸術家を呼んだりしていますが、ああいうのをもっと大勢呼んでくる。あるいは大学のクラブの人達から利用してもらうことによって随分収入が上がるのではないか。

また利用しなくても、私達の文化会館はこの位利用者が来て、余所の人がたくさん来るのだということであれば、逆に市民の満足度が上がるのではないか。それじゃ私も行ってみようかとなったりするかもしれないし、地元の人だけの内向けではなくて外向けな PR をもっと多くするべきじゃないか。せっかく良い立派な施設があるのに、それが利用されないような気がして、ただ民謡を歌ったり、カラオケだけとかの話になればもっと小さなところでも良いような気がします。

せめて新潟県で一番とか、日本中で一番だとか、まして世界で一番とかいうのを発信してもらいたい。その為には文化や教育は、民間主導だけでは出来ないのではないか。特にお金

の問題がなかなか私も検討がつかないのですが、本当に財団法人が立ち上がっても民間委託にしようが、たぶんお金で詰まってしまうのじゃないかと。10年で計画していても2、3年でギブアップになってしまわないかと、これが一番心配なのです。

そうじゃなくて、役所の人できちんとやって、民間の人達も協力して世界に声をかけて、羽ばたこうという発想も少し出来ないのかなと。また文化会館の名前なんてさっさと変えればいいと思いますよ。全然そんなことにこだわっている必要はないと思うので、なんでそんなことが問題になるのか不思議ではないです。

回答 資料No.1基本計画の12ページですが、文化会館の理想とする運営モデルは、文化芸術振興モデルです。これは全国公立文化施設協会が公共ホールについていろいろ色分けをしているのですが、その中で世界へ発信するような、例えばバッハホールとか言うすごいホールがあった訳ですが、そういう世界へ向けて発信するホール、あるいはもっと規模が小さくて、大和のさわらびの様に400人から500人位の小さいホールなどいろいろありますが、その中で、運営モデルというものを決めています。

今の私どもが目指す文化芸術振興モデルというのが「地域の中核的な文化芸術施設として文化芸術の振興とともに、地域の活性化も視野に入れて前世代対象の観賞事業の他、住民参加事業・教育普及事業等を実施することを想定している」ということです。言われたように世界へ向けて発信するという内容ではありません。ただ、地域の皆さんに良いものを届けましょうという考えはありますし、地域の皆さんに使っていただきましょうという考え方もあります。その両方をやりましょうということです。

会館のコンセプトとしても子ども達の感性を磨く場となるというようなことを一番中心でやっているのですが、例えば中学校の合唱コンクールは体育館等でやっていましたが、湯之谷中学、広神中学、小出中学が今は大ホールでやっています。一流のアーティストが使うようなホールで合唱することで、自分達の思ってもみない音が出る訳なのです。そういう体験ができるという教育の場というのはすごいことだと思います。

また毎年秋には、子ども芸能祭というのをやってまして、地域の皆様が伝統芸能を地元の子供達に指導されているのですが、その子ども達の発表の場ということで1日自分達がステージに立ってやるという、そういった部分もあります。

それとキッズ・ミュージカルのようなステージの上で対外的にも発信できるレベルにまで達しているものもあります。そういったものもある訳なので、世界的なアーティストを呼んでやるのも当然やらないといけない部分かと思いますが、地元の皆さんから使っていただくということは、決して無くしてはいけないものだろうなという考え方でいます。

今までもそういった流れですので、これからも継承していただきたいという考え方をして

います。一流のアーティストを呼ぶと大変お金がかかるものですから、それをペイさせるにはどうするかということで、これまでは文化庁の補助金を活用しておりましたが、この補助金にいつまでも頼るのではなくて、別の財源も見つけていかなければならないでしょうし、民間の方が運営する財団法人になった場合でも文化庁の補助金を受ける事はできます。それ以外に企業メセナなどの活用も考えていったらどうかと言われています。

質問 この度示していただいた方針というのは、説明があったように「民間でできる事は民間に」という考え方は正しい。こういう立場で作られた方針ですよね。私は、あんまりそうは思わないのですよね。「民間でできる事は民間で」というのは、小泉総理大臣の頃盛んに言われて、私もあの人が実際に話しているのをテレビで見たことがあります。民間でできる事は民間に任せるか、それとも公で公的な行政が直接やるか、どちらがやるべきものなのかということところがまず大事なところだろう。民間だって任せればやるかも知れないけれども、それよりも公的な機関がちゃんとやった方がいいのだというのも、私はいくつかあると思うのです。これはもう法律で決まっていますが、例えば図書館の設立や運営をこれは民間になんか任せてはいけないということが法律で決まっています、必ず公的な運営でなければいけない。なぜそうかという、図書館は人間の心に影響があるわけですね。例えば特定な本だけ揃えるとか、ある本だけに一方的に偏ることとかがあると、その地域の住民に非常に大きな損害を与えるわけですから、住民みんなが監視できる公正中立な行政、もちろん行政だって絶対に公正中立を踏み外さないなんていう保証はないのだけれども、行政ならば住民が監視できる。そして必要があれば要望したり文句付けたりということが出来る訳ですから。まあ図書館はそうになっていますが、私は文化会館もやっぱりそれと非常に近いものだと思っておりますし、公的な運営と言うのが非常に求められているのだと思うのですが、どうもそれを民間に任せる方向に段々となってきたのは、結局やっぱりお金のこと、経済的な理由、財政的な理由のようですね。例えば公的な今の運営でいうと、正職員が足りなくて非常勤職員でやっているのだけれども、非常勤だと1年契約で待遇も賃金格差も大きいと。それから長期間の経験が必要なだけれどもそれが出来ないと。だから専門的な人材が育てられないと。これは非正規職員が増えているからそうなのであって、正規職員を充ててですね、正規職員が長期の計画で。

市民 そういう話は別のところでやってくれ。この計画を無くしてしまうのと同じだ。そういう話をしたって駄目だ。

回答 今民営化というようなことでお話があったのですが、民営化ではありません。民間に管理を委託するということです。建物の管理を民間に委託する。それから委託する法人に、自主

事業の方もお願いをするということです。「民間でできる事は民間で」という考えが正しいかどうかということにつきましては、今言われたように別の議論だと思いますが、文化会館において、全国的には65%位の施設が財団法人等で指定管理を受けています。事業も含めての指定管理、新潟県内でいいますと新潟のりゅーとぴあ、県民会館、長岡のリリックホール、南魚沼市民会館、等々があります。その中でやはり建物の管理と事業等合わせて行っているところが多くあります。見附なんかもそうですね。

図書館の話でさっき触れられましたけど図書館も図書館法により企業がまかなうということとはできないと思うのですが、今指定管理は全国的に進んでいるところで、企業が受けているというような事例も、確かニュースになったと思います。

いわゆる市が文化芸術を全て離してしまう、手放してしまうということではありません。文化会館の管理の部分と、文化会館が行う事業の部分指定管理に出すのであって、その他で例えば、今日も来ていただいていますけれども文化協会の皆さんが地域でいろいろな活動をされている。そういった部分を含めまして市の方では全て手放してしまうのではなくて、市民に直結する文化芸術の部分は、市の方で最後まで当然面倒を見ないといけない、やっつけなければいけないことだというように考えています。

経済的な理由、財政的な理由はあるのですけれども、先ほど申し上げましたように今の非常勤職員の体制の中では安定した雇用も見いだせないし、技術職としてのレベルが上がった人をそこに配置するという、いわゆるプロパーの職員というのですけれども、そういった職員を配置する訳にはいかない今の市の事情があります。ただでさえ職員の数が多いということが言われています。

市内にもそれぞれの庁舎がありますが、湯之谷庁舎、広神庁舎、堀之内庁舎等々で、窓口の職員が合併した当初は、総合事務所という事で、そこで一つの仕事ができるように10人以上の職員がおりました。それが今何人いるか、センター長が1人、窓口の職員が1人、庁務員が1人、その他に非常勤職員が1人、たった4人で回しています。そういう状態ですけれども、まだ減らさないといけない。まだ減らしなさいと言われていました。そうすると今後どうなっていくか、文化会館の今5人いる職員がもっと減らされる可能性があります。そういう状態です。ただ仕事自体は減らないですから、職員も今アップアップしているという状態です。

質問 職員を減らさなければならぬという話なのですけれども、それはどこから言われていることなのですか。国から言われているのでしょうか。

回答 言われているのはいろいろなところからです。国の方からも当然言われます。一つの行政の母体の中で住民が何人いて、面積がどれくらいあるとどれくらいの職員で回しなさいとい

う一定の基準がある訳なので、それによって国の方からお金が来る訳なのですが、それを越えて大幅に例えば3割余計な職員を抱えてるということになるのと余裕があるのじゃないのか、お金もあるじゃないかという話もされかねないかと思います。これは想像です。

質問 今民営化を考えてるのじゃないと言われましたけれども、指定管理というのは公設民営というのです。つまり自治体が設立をして、そして運営は民間がやると。そういうのは民営と言うのですよ。

回答 私どもの使っている中では民間委託という計画になっていますので、会場の中では民間委託という言い方にさせていただきます。

質問 技術者が育たないという話なのですよね。財団法人になった場合に技術者が非常に育っていくということなのでしょうか。

回答 今回の実施計画の中で委託を出すにあたり、資料NO.3の15ページをご覧ください、組織に関する業務の基準ということで、指定管理を受けるにあたりそれぞれの分野別の管理責任者を定め、アーツマネジメント、舞台技術、音響技術、照明技術の専門人材を確保するよう努めてくださいというようなことが謳っています。これは、25年度末にも骨子案があったのですが、その中では専門技術の資格を持った専門人材を確保するというになっていたのですが、あまりにもハードルが高く、資格所有者を雇用しなければいけないので、そうではなく財団法人の中で育成してくださいという謳い方にしています。但し考え方とすれば今会館にいる非常勤の職員も技術を磨いて財団法人で雇用していただく。それから一定の期間において、財団法人がうまく回るまでの間ではありますが、職員の意向を聞いた中で職員を一定期間、派遣させてスムーズな移行を図りたいというようなことも考えています。

今年度は4人の非常勤職員が継続雇用を希望しないで退職してしまう訳ですが、その代わりに新しく入ってくる非常勤職員については、舞台の専門学校生や舞台経験がある人材を募集したところ、そういった方から応募がありました。

非常勤職員からは、さらに技術を身につけて、財団法人の職員として移行をしてほしいという考えをもっています。

質問 今のその新しい人は技術を持った人が入ってくると言ったのですけど、その人達を雇い入れるときに、こういう流れで2年後位には、民間に委託になりますよみたいなそういう面接でオッケーをもらって、入ってもらったのでしょうか。

回答 募集の時に一応舞台技術等の経験がある人が望ましいという形で募集をし、応募された方

は、面接をする中でそういう説明をしています。

それぞれ了解いただいた中で、契約にこぎつけているので、その辺は大丈夫かと思えます。

質問 この説明会が6地区で公開ですか、そういう中で市の方も一生懸命こういうふうな形で計画されたのでしょうか。これだけの資料をこうして説明していただいても、その後その他で意見交換と言う同じ内容を、今日2回目の参加をさせていただいておりますけれども、先生方のいろんな内容を聞かせてもらっている中で、合併し行政のスリム化という形で、そうして「民間でできることは民間で」とそういうふうなことを市民が望みながら、というかそういう形で時間が過ぎてきた中で、全国的にもそういう方向にみんな行っている訳でしょう。そういう中で企画運営委員会とか文化自由大衆とかまちづくり委員会とかが、そういう市のことをいろんな専門的な方達が考えられた中で、このスケジュール表も出来ているんでしょうから。漠然と何もわからない私達一人一市民として、そういう先生達の敲き台とか骨組みとか、何か見えてきているものがあるからこういうふうなスケジュールが出来ているんでしょうから、ただ何かありませんかではなく、何かそういう方向に来ているのだからというのをスライドか何かで分かりやすく説明してほしい。資料ナンバーの何ページの何行目をどうこう言われても、こういう時間がすごくもったいないような気がするのですが。市のいろんなことを考えられている敲き台みたいなものを教えて頂いた中で、今度私達がじゃあということで声を出せる方が価値があるとそういうふうに私は感じています。先ほどの小出郷文化会館というものですが、市になった時に小出郷文化会館が全国的にあまりにも稼働率が凄いいいということで、魚沼市になったとしてもやっぱり小出郷文化会館で、全国的にこれだけ名が上がっているのだからそのまま小出郷文化会館でいいのじゃないかという声で、その時はなったような気がするのです。今魚沼となろうとどうってことはないかもしれないですけども、なんで市になったのに小出郷文化会館なのだとされたのは、その時の小出郷文化会館と言う名があまりにも全国的に広まっていたからそのままいいのじゃないですか、というような声だったからだと思うのです。

回答 資料の提示の仕方につきましては、ペーパーだけで皆さんに説明をせざるを得ない状態になっており、これにつきましては本当に申し訳ないと思います。もう少し分かりやすく噛み砕いた状態で提示できれば良いかと思うのですけれども、スライド等で写すことが果たして皆さまにご理解を深める筆法なのかどうかということについては、またいろいろな考えがありますので、今回はこれで申し訳ありませんが進めさせていただいておりますので、ご了承願いたいと思います。

それから当日になってからの資料配布という形が大変目立ち、事前に何らかの方法で皆さ

まの方に周知出来れば良かったのですが、これについても合わせて大変申し訳ないと思っています。市のホームページにもアップしていますので、周りの方に皆さんからもお話を広めていただければありがたいと思っています。

それから名称の関係については、言われたように合併時に今までの経緯があるので小出郷という名前を変えられなかったということですが、10年も経ちこれが良い機会と思っています。

ほかの会場でも申し上げましたが、例えば「魚沼市文化会館」で愛称として「響の森ホール」というようにつけるとか。「魚沼市文化会館響の森市民ホール」と付けるような形で、新しい名称にしてもいいという気がします。小出郷文化会館という名前というのは、全国的に高いものがありますが、いつまでもそれにこだわっていないで、新しい会館の姿を見出していくというのも、そこから現れる部分なのかという気もします。

これについては、企画運営委員会というところがありますので、そういったところや、機会があれば皆さんにご意見を伺いながら進めていければと思います。

質問 一口株主といった考え方もあるのかということが、市としては(株)FM魚沼みたいな感じでやっていこうと考えているとか、だいたいのそういう計画みたいなものってあるのですか。

回答 他の会場でも、多くの市民の皆さまが関わっていけるように一口株主的な考え方ができないだろうか、というご意見を頂戴しております。FM魚沼の場合には、一口2万円の株券になっていますけれど、今回は財団法人なので、皆様から出資をしてもらうという部分では、そういった多くの方から一口1万円とか2万円とかで出してもらう形というのは理想ではないかと思っています。

その他に財団法人がどうやってお金を集めるのかという話になるので、市がそれに対して口が出せないのですが、市としては財団法人が設立される時に、最大限の支援をします。例えば財団法人を創る時に、先ほど資料の中にもありましたけれども約款を作ったり財務諸表を作ったりしなければいけないのですが、そういった部分のお手伝いをします。あるいは会館立ち上げの時から事業を行い黒字になった部分を基金として積んでいます。文化振興基金という形で市で積み立てをしています。そういったものを財団が設立されるときに活用するというようなことも考えて行きたいというように思っています。

それと先ほど申し上げました企業の皆さんからご支援をもらうことを含めて、毎回、アドバイザーが出席され、300万円ではとても財団を運営していけないというお話をされるので、そういった部分では、300万円集めればそれでオッケーだということではなくて、より内部留保を増やすような形は考えていかなければいけないというように思っています。

質問 計画通りに指定管理者が決まって運営が始まる時に、文化会館に市の職員は常駐されますか。

回答 その部分はまだどういう形になるか詰めていません。

質問 理解ができないのですよ。現に文化会館を見ても、どなたが責任者なのだろうと誰もわからないし誰も検討がつかない。自然に動いているけどやっぱり最高決定者がいないと、民間の会社だって同じことですから、それがないとますます曖昧になってしまうんじゃないかな、という気がして心配なものですから。

回答 文化会館の最高責任者という中では、市長が最高責任者ですけれども、文化会館の館長は私市民課長なのですが、私が事務取扱を命じられまして兼務をしております。ただ常駐はしていません。そういった中で文化会館が18年前に立ち上がったときに、当時の広域事務組合の中で館長にある人を据えようとしたのですが、会館の活用、それから文化芸術を考えると、当時、住民の方から天下りの館長じゃ駄目だというような動きがあったと聞いています。

その中で前任の館長となってずっと会館を担ってきましたが、18年間館長をしてご勇退、今文化庁で仕事をしています。全国的な仕事に携わる身分になっていますけれども。そういった中で後任の館長については、市の方で誰それという話ではなくて、会館を支えていただいた皆様から推薦をもらいその方にしましょうという流れだったのですが、なかなかその後任の人事に時間がかかり、1年間私が務める形になってしまいました。

仰られるように財団法人が出来た時に財団法人の理事長、それから新しい文化会館の館長、そういった形での人的なところについては、きちりしたものになるように実施計画のほうにも謳っています。

もう一つは、先ほど申し上げた魚沼市が、文化芸術をどうやって担っていかという点につきましては、教育委員会で生涯学習事業を行っていますが、公民館事業といった部分もありますので、組織全体としてどこに何をどう貼り付けるのか、ということこれから検証します。

また文化会館の中にその組織を置くのか、堀之内に置くのか、そのころ新しい庁舎が出来て庁舎の方に置くのか、その辺についてはまだ未定ですが、今の中にどう職員が配置されるかどうかというのは、お答えできない状態になっていますが、流れとしてはそのような形です。

質問 今まで文化会館を使わせていただきまして、響の良いホールに感動して沢山の出会いも

生んだりして、それはとても素晴らしいことだと思っております。そしてこの財団に向けてのものを読みますと、非常に良い事がたくさん書いてあるのですけれども、現実には例えば2千5百万円の収入が上がるどころが5百万円しか上がっていない。そうすると本当に財政的には厳しくなり破綻するのじゃないかと不安があります。

そして私達、地元の人達の負担が多くなっていくのじゃないかという不安を持っています。それから財団に関して人材育成ということを謳ってありますけれども、これに関しては期待をしたいと思います。先ほど外に向かってアピールをというお話があったのですが、ホールを使って各大学のサークルの人が演奏活動したりとか、それも技術職の方がきちんとしていなければ成り立たない話ですし、実際あそこでレコーディングが行われたりしている訳ですので、そういう形でもっともっと良いホールだということを知っている地域のみならず、外に向けてのアピールもこれからもっと行っていったらいいと思います。

回答 私どもが財団に望むことは、やはり今お話があったような地域の皆様からもご利用いただき、魚沼市の文化会館として外に発信できるものを持ってほしいということです。財源ですが、財団法人と市との間で協定を結びまして、いくら位で指定管理をお願いしますというような形をとります。

計画書の中にもあるのですが、事業をやって儲けがでる。儲けた分は財団の収入になります。財団がその収入を使ってまた新たな事業を興していただく、というようなローテーションになるのが一番理想かと思っています。

それから人材育成の関係では、言われたとおり私どももそちらの部分で期待していますし、対外的なアピールということでは、つい先週ドイツのマンハイム音楽大学の学長をされているルドルフ・マイスター先生がピアノ音楽合宿を行いました。そちらの第1回目の受講生だった方が今、東京芸大の教員をしているということで、実はこの日曜日に「四月は君の嘘クラシックコンサート」というのを会館で行いますが、このアニメーションのモデルピアニストを務めました。

会館で受講した方が、世界的なピアニストになっていると、もっともっと私どもも発信しなければいけないことです。

またレコーディングにも来ていますし、うちの会館でレコーディングしたことをPRしてもらおうとありがたいと思います。

それから大学についてもいろいろと引き合いがありまして、大学の音楽サークル等がやってくる予定も入っています。そういったところの繋がりも大事にしていきたいと思っています。

質問 人件費などが厳しくて専門的な人材をなかなか育てられない、確保できないという問題点が指摘されていますが、指定管理等民間の運営にすると問題が打開できるというお考えなのでしょうか、どうして打開できるのか。公営だとなかなか難しい問題が、指定管理になるとそこが打開できるだろうという根拠を教えてください。

回答 市の非常勤雇用は1年雇用です。今制度上それ以上の雇用がありません。1年で契約が切れる。次の年は新しい契約になるという考え方です。財団法人で正規の職員で雇用していただければ身分的なものは安定するかと思います。賃金についても今よりはよくなるだろうと思います。

質問 いわゆる人材育成とそれから今までやってきた文化会館の活動の中で、市民の音楽なり演劇なり芸術それぞれの部門でのサポート市民を2倍3倍に増やせるかどうかで、この質が決まってくるかと思います。今までもっと文化会館の方で市民に上手くサポートしてくれる方をもっと頼めば良いのにと、私はまだろっこしいと思っていた訳ですけれども。それは別のまちづくりの中で提案しましたが、ほとんど反応が無かったということで、こういう活動や生涯学習等はぜひ、いろいろな市民はいろいろなものを持っている訳ですので、どんどんサポート市民を増やしていただくということと、後は人材育成それから生涯学習、健康づくりそういうものは、地域通貨とはなんぞやかが本当に分かっているならば、それを活用するというので、改めて皆さんがいるので言いたいと思います。それが本当の民主主義、本当の自治だと思います。

回答 市民サポートの部分では、会館が立ちあがったときに公が作りましたが、民間の方の力あるいはボランティアスタッフの皆さん、それからサポーターズクラブ、友の会、そういった皆さんの支えがあって会館運営が成り立っていました。

ただ18年間立ち、なかなか世代交代というか、後継者が育ってこなかったというところはあるかと思います。言れるように新しい人材をいかに増やすかというのは今も私どもの課題です。友の会にしてもなかなか新しい方が入って来ないので会員の数が右肩下がり。そういったベースの部分の人数を増やせば、企画をやってもある一定の部分は確保され、それに上乘せができるということかと思いますが、そういうところをいろいろな手法で考えていかなければいけません。また、今地域通貨という事で改めてご提案があるということなので、そういったものは後程拝見させていただいて、考えていきたいと思っています。

質問 文化会館ではないのですけれども、公の福祉センターとか私達文化協会の会員ということで、減免で使用料を安くしていただくことは本当に嬉しいのですけれども、例えば私達の団

体の稽古の時にクラブ室とか会議室をお借りするのですが、1時間減免で1,000円なのです。自分達の家で何かするにしても1時間1,000円で冷暖房付きのところであるということは、本当に必要経費が安いのは、市民は嬉しいですけども、あまりにも安すぎるというか、やっぱり必要というか市民としても支払っても全然気分も悪くないです。100円でも200円でもいいのかも分からないのですが、やっぱり必要経費は、自分達が生活している中で必要なものは誰でも納得ですので、私はすごくその減免金額が安いというか申し訳ない気持ちでお借りしているのです。皆さんどのように思われるか、私はここまで安くする必要が無いのじゃないかなと思って、いつも喜んで貸していただいている一人です。

回答 他の皆さんから減免の部分で何かご意見があればお聞かせいただいて、その後で私からお話させていただければと思います。

意見 私は大人であれば当然頂戴して良いと思います。子ども達は別にして。

意見 スキー場も株主の人達には、リフト券を配るけれど平日だけです。平日じゃなければ買ってくれということだそうですので、受益者負担でいいのじゃないでしょうか。

意見 他の地域の会館とかコンサートホールにしても、一般の人が利用するにしてももっと高いと思うのです。なのでここは安いねと言われるのですけれども、もう少し料金をアップしてもいいのじゃないかな。その減免はわからないのですが、一般的にはもう少し高くてもいいのじゃないかと思います。

意見 民間で音楽教室と楽器をやっているの、比較的文化会館にとってはお客様でもありますし、逆に使わせていただいて大変ありがたいと思っております。今の料金に関するお話をしたいと思うのですが、ご指摘のようにあまりに安すぎてサービスが良すぎたのですよね。

お金の点から行きますと、先ほど2,500万円使って500万円しかないという話がありましたけれども、その大半の使用料は、使用率を上げる為だけではないのですが、ほぼ学校が使ったり市が使ったり、減免団体が使って、ほとんどただで使っていたという事実ですよね。

これを他のホールが仮にやったらもちろん稼働率が上がると思いますし、簡単に真似出来るはずのことだったのですが、どこも真似をしていないのは、やっぱりそういう理由が絶対にあると思います。それとなにしるこのホールが田舎のこういった所には、一つも無かった関係上、全てを文化会館に見合わせてしまって、それでは飽き足らず必要なアウトリーチといますか、周辺に出向いてコンサートもやってらっしゃる。

要するに文化活動的にやるものの、まあ民間が普通都市部で担っているものも全て担われてしまって、欲張りといったらなんなのですが、超理想を掲げてですね、それを全てやるのが公の責務だと極めて真面目な考えで、しかも低料金で今までやられたが故に当然好評だっ

たと思います。

質は高いし、安いし言うことなんかないのですね。料理でいえば超高級料理を超低料金で提供した。このことがあまりに良かったのだけれども、この地域には、身に余るといいますか、いろんな点で無理がなかったかというところですね、この経済状況の中、お客様が右肩下がりだったというのは、一つの欠点があったのか、やはり経済的なダメージ、ネットの普及とかですね。そういったものが大きいと思いますし、子ども達にただで見るのは良いのですけれどもただで見るのが当たり前になってしまって、決してお金を出して観に行かないような癖がついてしまっている。

学校がやるコンサートみたいなものは、昔は学校がそもそもやっていたのです。年に1回なり2回の観賞教室は学校側で集めてやっていたのですね。学校側の中身ですから学校の教育予算を使ってやっていたのです。これは本来当たり前なのですけれども。それを文化会館が担うのであれば、市の同じ会計なのでそこで出すのは当たり前であって、それを文化会館のここの所の会計に載せるのはおかしい訳ですよ。

その観点からいけば、民間のその経営スタイルに合わせれば、財務諸表におかしい、辻褄が合わないものが出てくるようになっていきますし、職員ですとか専門職の問題も民間だって当然苦しい訳ですし、そんな優秀な職員はNHKさんでもない限りは、そんなに雇用できるはずがないのですね。実際雇用している方もほとんどないと思います。だから今ここに超理想を掲げて専門職員も育ちますなんて言っても、本当にそれ相応の給料や待遇があれば別でしょうけれども、そんなに都合よく育つでしょうか。

されとて市民が協力してやるというのはもちろんいいし、それが市民を育てる事になるので、アマチュア精神からいえば極めて大事な訳なのですが、但しこの地域の人口で実際に居る人達の中には若者はほとんどいないのですよ。他の都市部に出て行ってしまって、その人材というのはほとんど地元にはいないという言い方をしても過言ではないだろうし、それをそうやっておきながら、さらに地元で育てるなんてことを言ってもですね、それはかなり難しい問題、理想の中だと思うのです。だからこれを機会にその辺の知り合いにというか、普通に見てですね、やはり着実に努力していくことが必要です。

お客様に関しては、絶対この4万人のエリアからお客様を連れて来るという方法は良くないと思いますので、明らかに外部からいらっしゃって頂くべきなのですね。そうしなかったら絶対無理だと思います。交通の問題が悪いなど若干はあると思うのですが、どんな催しをやってどのような企画を立てても、恐らくこのエリアの住民だけでは絶対に満足な集客は無理だと思うので、外部から堂々とひっぱってくるという方法でやる。地元の子どもの育成とその分野に関しては、それも皆さんが言われました通り、大学等々とどんどん交流すれば

一石二鳥なんではないかと思います。新潟大学とか強調はしているのですが、いかんせん県内のたった一大学だけではそれはもう無理なので、堂々と東京の方から人を引っ張ってくるような発想が必要かと思います。

お客さんも演奏者も全て都市部に、こちらから既に出している訳ですから、それを貰うという発想は、絶対に入れていただかないと恐らく無理じゃないかな。

かなり良い事をやっていますから実現性は極めてある、後はやるかやらないか考え方一つだと思うので、こういう機会にやっていただきたいと思います。

質問 実は私もその借用料に関してなんですけど、7年前でしたが同じ大会をやらせていただいたのですが、そこから全く料金が上がっていなかったのじゃないかなと思ひまして。すごく安くお借り出来て、それは助かったのですが、これじゃあやっぱり大変なんじゃないかと思っております。貸館の料金というのはアップしないのでしょうか。

回答 合併前の6町村で公民館とかここもそうなのですが、こういったホール料金がそれぞれバラバラで統一がされていなかったのが、合併後2年位してからでしょうか、公共施設の使用料金を統一するというようなことで、それぞれ所管課で動いたことがありました。その時出されたのが、人件費を除いた建物の維持管理費の4分の1を利用者から負担頂きましょうという基本方針でした。その中でどのようなことが起きたかと言うと、今まで例えば堀之内の公民館を使っていた団体のみなさんの使用料金が倍以上になるというようなことが起きました。その時に公民館事業に関しては、生涯学習の連絡協議会と言う組織を作って、この組織の加盟の方については50%減免しましょう。子ども達については、25%まで減免しましょう。減免をして多少料金は上がりましたが大体同じくらいの料金に統一がされたという経緯がありますが、文化会館についてはそういった計算をしていません。近隣の会館の使用料を眺めて、それによって決めたというように聞いております。

その後消費税が3%から5%、5%から8%と上がって参りましたけれども、5%に上がったときに若干その分上乗せしましたが、今回8パーセントに上がったときは、その分は吸収したという形で料金は変えていません。開館以来ほとんど変わっていないので、仰られるように上がっていないと思います。そのやり方で良いかどうかというのは、また今後の一つの大きな課題だと思います。

今日安すぎるというお話をいただきましたので、これはまた企画運営委員会の方で審議していただいた中で、見直し等も考えていかなければいけないと思います。

もう一つは、文化会館のホールをお使うときに、前日のリハーサルはともかくその前もずっとリハーサルで使って、それも減免だよというような例もあります。それによって私ども

が営業でお金を頂ける方の利用が出来なくなるというようなこともございます。

したがいまして、今後減免の基準等の見直しをする、あるいはリハーサルには振興センターなどを使って頂いて、本番の前の仕込みの時からホールを使って頂くとか、そういったようなこともこれから考えていかなければならないと思っています。

それと対外的に発信をする、余所からきていただくという部分は、今ホールの利用率がざっくりいって大ホールが75%。小ホールが65%ということで、ほとんど空きが無い状態です。特に9月10月11月は皆さんがご利用されようとしても、もう土曜、日曜は全部ふさがっていて、空いている日にちがないと、そういう状態になっていますので、もう少しリハーサルとか練習で使う部分が他の施設で何とかなれば、もっと余裕が出るでしょうし、一部の方からは月曜が休館になっていますけれども、民間になれば休館日はなくてもいいのじゃないかと話もいただいています。そこのところは、市の条例をどう改正していくのか、本当にそれでいいのか、民間の方がパンクしないかという部分も含めて検討していかないといけないのですけれども。収益を上げるという事は非常に大事なことですし、その手法については、指定管理者の方で私どもでは考えられないような方法も考えつくのではないかなという期待もございます。

使用料金の考え方というのは、今までそういう形で来ていましたので、やはりこの辺で考えを改めないといけない時期なのかと思っています。ただ学校等が利用した場合にその部分は市が補填するというようなことは、当然出てくることかと思っています。

質問 ざっくり計算しますと年間8万2千人から使っていて、収入が400から450万円というようなお話でしたが、そうすると相当無料で使っている方がいるんだろうと思うんですが、これだけある程度利用率が上がっていて、この程度っていうのは先ほどいわれましたようにいんな無駄な分があるか、もしくは低料金で貸しているとしかいいようがないです。

いろいろやって来た中で、経費等が掛かり過ぎているからもう少し全体的なマイナス部分を少なくするために、なんとか民間を活用しようということでこういう方針が出た訳でしょうから、現在のやり方では改善がされないのではないかと。

やはり残念ながらある程度皆さんからは、負担をしていただくというのも必要ですし、前館長は、かなりやり手でいろんなところからお客さんを連れて来てもらった訳ですけども、これからこういった状況がある程度改善して、文化会館がうまく継続的に皆さんから利用していただけるようにするということになりますと、なかなか非常にハードルが高いのかなと思います。

そういった中で先ほど言われたように、やはり都会、魚沼市以外からお客さんを呼ぶ手法

としてですね、仮にこの財団法人を市内の皆さんで考えるのか、ある意味全国的な部分から財団法人なり出資者なりそういった部分を、全国的な部分からなんとか田舎にあるものを使って首都圏の方からも来ていただけるような、そういった発想ができるような財団とか、そういったもので運営していただかないと、やはりこの魚沼市だけでは非常に厳しいのかな、というような感じがしておりますので、そういう全国的に一般財団を募集するみたいな考え方はありますか。

回答 財団法人の出資者をどの程度で募集するかという考えは、行政がそのところに手を掛けますと、行政が作った財団になりますので、今現在はそういう考えは行政側は持っていないのですが、例えば郷人会の皆さまに働きかけてお願いをするというのはありだと思います。

また今まで会館と関わりがあった音楽大学もありますのでそういったところに声掛けするのもありだと思います。発想としてすごく現実的なことだと思いますし、実際にそれがなせるのであれば非常に有効的なものだと思います。

8万2千人が使っているというのは、コンサートなどのお客様を含めての人数ですので、コンサートに来られるお客様は、チケットのお金を払って入ってくるので、その8万2千人が利用する収入が450万円ということではございません。会館を貸館で使って入ってくる収入が450万円という考え方でお願いしたいと思います。

都会からお金を呼ぶという方法では、今構想まで行ってないのですが、例えば会館の方で子ども芸能祭をやります。地域の子供達が出ます。これに郷人会の皆さんが観光協会のバスを使って来ていただくというようなことも有りじゃないかというような話もしているところです。都会からお客様を呼ぶという部分ではいろいろ手法が考えられると思います。

意見 全国から出資を集めるという部分ですけども、実は去年クラゲの水族館ですか。あれが同じようなやり方をして、全国から出資を集めるような形で非常に宣伝効果もあったし、非常にお客さまも来ているという話を聞きましたので、ぜひそういうのも研究していただきたいと思います。

回答 ありがとうございます。